

くじらぶね



南楠鯨船まつりは、2日間の練り行事において、地区内約40か所で「鯨突き」を行います。

南御見束神社の氏子代表である各々の練り先で「鯨突き」を披露することで、大漁・豊年に感謝し、練り先の繁栄や世の中の平和などをお祈りしています。

以下で鯨突きの流れをご紹介します。

さらに鯨船通になるために・・・ぜひ、ご一読ください。

【鯨突きの流れ】

1 次の練り先を示します。

ぼん天（金糸で「龍神丸」と刺繍した赤い幟）が真っ先に練り先に到着し、鯨は周辺に待機します。

2 鯨を探しています。【前唄】

龍神丸の到着とともに前唄が始まります。前唄は唄人と若衆の掛け合いです。

（唄人）伊勢工～伊勢工～工～ （若衆）ソーリャ ヨーシタ ヨーシタ
正しい意味は不明ですが、「伊勢神宮に奉納するほどの大漁にするぞ！」
「あったり前じゃあ まかしとけ！」というような掛け声です。

3 鯨がやってきそうです。

（唄人）沖でかもめが三つとんだ （若衆）網掛きよ まいか
かもめの下には鯨がエサとする小魚がいます。「網の用意をするぞ！」という「さんぱらい」の合図で鯨突きの準備が始まります。

4 鯨がやってきました。【本唄】

（若衆）背美は来るよオホイホイ ああ越え来る お目出度い
背美とはセミクジラのことです。鯨が波を超えてやって来ました。
近くまで来て船に気付いた鯨が、反転して逃げていきます。



5 鯨との戦いの始まりです。

（みよし）サーサーヨー （とも）ヨーシタ ヨシタ ヨシタ サーサーヨーで左
みよしは船前方、ともは船後方のことです。

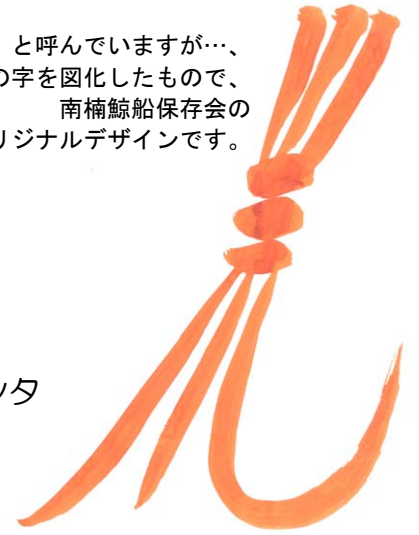
サーサーヨーの意味は不明ですが、「さあ やるぞ！」「よっしゃ まかしとけ！」
というようなやり取りだと思われます。「ヨーシタ ヨシタ ヨシタ」で、
鯨に気付かれないように少しずつ船を近付け、鯨を追い込みます。

（裏面につづく）

6 鯨の反撃です。

(若衆) ヤーサ ヤッサ ヤーサ ヤッサ
もう一步のところで鯨の反撃に合います。
仕方なく船を後退させチャンスを狙います。

「エビ」と呼んでいますが…、
「祝」の字を図化したもので、
南楠鯨船保存会の
オリジナルデザインです。



7 攻守交替。再び鯨を追い込みます。

(若衆) 浮いたぞ！
鯨がひるんだすきに、今度は船の攻撃です。
(みよし) サーサーヨ (とも) ヨーシタ ヨシタ ヨシタ
再び、少しずつ鯨を追い込みます。

8 鯨が起こす大波に揉まれてもあきらめません。

(みよし) やっさもっさ ひっからげて (とも) 質屋へどしこめ
鯨が暴れる大波に揉まれて船が大きく左右に振れますが、あきらめません。
ヤサモサは「絶対に仕留めてやるぞ！」という若衆の意気込みです。

9 いよいよ鯨を仕留めます。

(若衆) サーヨーサ サーヨーサ
踊り子がモリを持ち、狙いを定めます。
子鯨を連れたメンタ（雌）は気が荒いため、必ずオンタ（雄）を狙います。
(若衆) ソーレヤレ ソーレヤレ ソーレヤレ
踊り子がモリを放ちます。見事オンタに命中。オンタは3度小さくはねて
力を失います。

10 祝い唄です。【後唄】

(唄人) 目出度の鯨 今突いた

(若衆) それも竜宮のオホイホイ ご了承かいお目出度い

竜宮とは海の神である龍神様が住むところです。龍神様に豊漁を感謝し、船上で踊り子と櫓こぎが万歳でお祝いをします。



11 天高く大漁を誇ります。

(若衆) 御代じゃエン御代エン御代シャントイネ
ヤーアッサ ヤアッサイネ

御代とは天皇陛下の治める世の繁栄を祝う言葉です。
みよしを大きく突き上げて、大漁を誇ります。

12 弥栄を祈念します。

(唄人) やっさのその子 (若衆) 伊勢の浦浜

弥栄とは「ますます栄えること」です。

とも上げで太鼓櫓を高く上げることで、練り先の益々の繁栄をお祈りします。